

国分寺市図書館運営協議会第4期第10回定例会

日時：平成26年10月17日（金） 午前9時30分～12時00分

場所：光プラザ資料参考室

欠席：1人 傍聴：0人

課長：今期最後になるが図書館評価については委員の方に大変ご尽力いただきありがとうございました。まず、光図書館業務一部委託ということで資料10-3が文教子ども委員会に提出した資料。1の目的については周知済み。2の実施スケジュールは今後3年間の流れと、なんでそうなったかについて書いてある。まず平成27年4月から光図書館において一部委託、主にカウンター業務、フローワーク、事務室内の交換業務等。現在主に臨時職員が行っている業務を委託する。その後来年度は検証期間2年、すなわち平成27年度、28年度で検証期間として試行する。29年度からは本多図書館を除いた4館を一部委託する予定。この中には書いていないが拡大するサービスとしては現在光図書館では毎週水曜日夜8時まで開館しているが平日の火曜から金曜日までを夜7時までとする予定。月曜日にも本多同様に開館する。東の本多図書館と西の拠点である光図書館ということで地理的バランスもとれる。まずは光図書館から始める。7月に文教委員会等で図られ9月議会の補正予算でこの経費である予算が承認された。

次に国分寺駅北口再開発ビル公益等検討委員会の進捗状況について。こちらは5月1日に設置したばかりで10月7日に第1回のワークショップがLホールで開催され参加者30人ほどで20代から70代までの方々。4グループに分かれて討議を行った。配布資料10-4がこの施設の見取り図。このビルは平成29年に完成し、平成30年度までに駅前広場が完成する予定。2棟のツインタワーで東側に32、33階のタワーマンションと西側にも同様なタワーマンション的なものが建つ予定。東側のマンションの1階から4階まで商業スペースが入り、5階に国分寺市の公共スペースが設けられる。この5階部分についての使用を検討して検討会が5月に発足し、現在協議を重ねているところ。10-4の図面の右側部分に屋内部分と屋外部分がある。屋外部分として上の丸いところが庭園。右側の四角部分が市民農園ということだがまだイメージで協議中。その下側がホールと書いてあるがここからが屋内。このホールは今のLホールの200人収容が300人ぐらいの収容できるということで1.5倍になる。工事が柱や防音壁の躯体構造の関係からここは決定している。左側の民間活用ゾーンと指定情報発信コーナーということでここをどのように使うか検討を重ねているところ。左側の指定情報発信コーナーに図書館施設が、その下側に市民課施設が入る予定だが、ゼロベースでどのような施設が望まれるのかをワークショップに投げかけている。民間活用ゾーンについては現在、農園カフェとかラウンジ的なものがでていますがまだ白紙。武蔵野プレイスでないが、図書館施設からラウンジまで緩やかにつながっていくのがいいのではないかという意見もある。図書館施設であれば、地域資料の発信とかビジネス的なものの活用、起業、就労斡旋などの意見が出された。下側の民間活用ゾーンでは当初、大学との共同経営の考えもあったがここもゼロベースで検討していくことになった。ホールについて従来のLホールと同様な使用にさらに結婚式2次会パーティとか、もしくは外側の野外庭園と一体化して使えるオープンなものしたらどうかという意見も出されたが、まだ決まっていない。10月19日にワークショップが開かれるがそれも踏まえて検討を重ねていきたいと考えている。

次に都立多摩図書館の移転のことで資料10-5。この8月に工事着工説明会があり、その際の図

面である。西国分寺駅から来た時に都立武蔵国分寺公園に入っていく側から府中方面から見たパースで描かれている。ゆるやかにカーブを描きながら1階に図書館の閲覧会館、2階3階が閉架書庫になる予定。当初、閉架書庫は地下1階予定でしたが湧水の関係で断念した経緯があります。今度は図柄が先ほど反対で上が北となる。遊歩道、保存樹林を経てエントランスホールに入ると左に展示室、雑誌、海外閲覧紙、さらに青少年エリア、児童書エリアがあり、中央にガラス張りの準閉架書庫ということで研究資料が入っている。都立多摩図書館は雑誌・マガジンバンクと言われているように雑誌が充実している。また、都立日比谷図書館が所蔵していた資料の引き受けをしていて、児童書、青少年図書が豊富にそろっている。この準閉架図書というのはどちらかというと教職員向けの資料が充実している。次に2階部分左に200人収容のセミナールームがある。後が閉架書庫、3階も閉架書庫ということになる。今後、国分寺市としては2階のセミナールームを市の行事などに使用、学校の見学、ストックヤードの見学、学習支援など様々な形で市と協働していきたいと話をしているところ。ここは図書館の図書館なので、直接貸し出しはできない。あと工事の日程はこの8月に着工しているが来年度には早々に締結したいと考えている。

近隣5市のうち小金井市からも打診をいただき継続中。一部委託については予算が承認された。図書館の展示について質問があり、本の展示だけでなく、ふるさと文化財課との協働で現物を展示したらどうかという話があった。また、ボランティア制度についても提案いただいている。今はおはなしの読み聞かせだけだが、これから書架整理、環境美化とか今までやっていなかったところに目を向けていきたいと思っている。報告は以上。

会長：報告事項で何か質問は。

会長：27年4月の光図書館の一部委託はどういったところに委託するのか。

課長：委託先についてはこれから募集するところ。今の段階ではいろいろな業者との話し合いの中では図書館業務に特化した業者や書店など。特化した業者などが多いと思う。市としては図書館知識を高度に持っているところ、研修制度が整っているところを視野に入れている。具体的には光図書館に配属される者は図書館司書を有しているものが6割以上ということで枠を決めている。昨日最終確認したところ。これから一つ一つ事務的処理を行っていく予定。

会長：それは公募型なのか。

課長：公募型プロポーザル。今後の予定は一次審査の書類審査を12月中に終え、1月に入二次審査でプレゼンテーションとヒアリングを行い決定していきたいと考えている。

[協議事項]

会長：協議事項に入りたい。25年度図書館評価。これについては前回の定例会で小委員会を設けて1次評価は図書館で評価したがそれを受けて2次評価を運営協議会が評価するということだが全員で関わるのはむずかしいということで小委員会をつくり委員の村山さん、木下さん、副会長の倉本さん、私それに、事務局、職員も入って当初3回の予定だったが5回行った。一つ一つ項目を詰めて、かなり詳しく説明を受けた。また、漠然とした答えもあり、もう少し具体的にわかりやすい方がいいということと、せっかくいろいろな事業を展開しているわけなので、評価の中でねられた方がいい。25年度の目標に対して事業実績というのはかなり細かい形で出しているとか、1次評価も他人事のように評価するのでなく図書館が次に向かってどうすることをしようとする思いを入れてほしい。われわれの2次評価も事業実績とか1次評価を見定めた中で2次評価を

どうするかとうところまで議論を進めてきたため、時間がかかってしまった。小委員会の委員の方には6時から8時の時間を大幅に超えて遅くまで議論した。こうした中で出来上がった資料。この評価表を見てすぐ意見をいただくのはむしろかしいとは思いますが小委員会の委員さんから一言ずつ5回の小委員会に関わった中で感想をお話しいただければ思う。

委員：会長がおしゃっていた中で具体的なことで図書館業務というのは大変なことが初めてわかった。一つ一つやる中でそうした役割も果たし、誠意をもって図書館の運営にあたっているというのがわかった。

会長：委員の関わり方は図書館をよく評価しようとする、支援する立場で職員の方もはげまされたのでないか。私はむしろ厳しく評価してきた。

委員：図書館の方が、日頃こんなに努力されているのを改めて感じた。会長さんのこのぐらいこの予算が必要だというご意見に感銘した。一つびっくりしたのは英字新聞が少ないということ。ジャパントタイムズなどは高校生もよく見るのでそうしたところに力を入れていただきたい。

委員：図書館評価を通して感じたことは、図書館司書(職員)の方々がわたしの意見の一つ一つに耳を傾けていただき事務局の真摯に姿勢に感謝する。時間をかけて評価できたことは良かったと思う。私個人として良い2次評価できたと思う。

会長：私も2次評価に関わるということで責任は重いと思った。元々は図書館法第7条に基づき、事業、活動について評価し、その結果を公表するとあるが、重みのある仕事をしたと感じている。小委員会の委員の皆さまには手弁当でやっていただいた。そんな中でも不十分なところがあるのでないか。もし、あればこの場で修正することはできるので修正したい。いろいろ忌憚のないご意見をいただければと思う。大きく分けて1番目の利用環境と利用条件の整備のところでは利用者登録とか、開館日、貸出冊数の閲覧とか事業名があるのでそうことについて議論をしたいが、目標のところは有効登録率22%とかなり高い目標を掲げたわけだがそれに対して事業実績は14%。この差はなんなのだろうか。目標自体がかなり高いのではないか。実はこれに近い数字が出ていた年度がある。その年度に近づけようとしたが実際にはそこまでいかなかった。その評価の仕方がむしろかしかった。ただ、目標を掲げた以上はそれに近づけてならなければならない。近づけなかったので評価はCである。そう見てくると、目標をつける背景というのは理由があつてむしろかしい。1次評価と2次評価がほぼ一致したわけだがいくつかは1次評価ではそういう評価でも2次評価となるとそれでは物足りないことでランクを下げたものもあった。そういうところも見ていただきながら意見いただければと思う。時間があるのでお気づきのところ、このところはどこに書いてあるかでも、日頃感じていることでも結構だ。

委員：必要があるから、「必要です」という評価が当然あるのだが「期待します」とか「望みます」とかそれが評価できるとかできないとかその使い分けに何となく違和感がある。

会長：言葉の定義はしていない。1次評価あるいは事業実績の文言に対応するような形で何も書かれていないと「それは必要です」ということになる。何かをしようとしていると「期待します」とか「望みます」という言葉にさせていただいた。

委員：アンケートのことだがいつごろ公表するのか。

事務局：点検をしてホームページにアップする。20年間使っていた図書館システムが10月から変わり、皆さまにご迷惑おかけしている。図書館の中でも混乱している。

委員：市役所のホームページで図書館がないのでどうしたのか。

課長：市のホームページが、10月1週目まではなかったのだが、その後調整して入れてある。スマホから入れる。入り口がわかりにくいということと図書館ホームページのアドレスも変わってしまったこともある。

委員：去年から学校図書館の図書の運搬業務が施行されたが来年もやっていただきたい。

課長：先ほどのシステムの話だが今回、教育系ということで学校教育と図書館のシステムが同じになった。

会長：先ほどのアンケートの部分に関しては25年度末ということで行われていたがアンケートする以上は結果を公表すること。年度内に公表する。1次評価は実施しているのでA評価であるが公表していなく、年度内でもなかったのがB評価ということになった。

委員：1次評価と2次評価が違っているところを示していただければと思う。

会長：10ページの1番上ホームページの作成と活用というところ。25年度の目標としては「図書館資料関係のリンク集を作成してポータルサイトの充実を図ります。各種利用案内の充実を図ります。」ただ事業実績では同じ「サービスの改定を図りました」。光プラザの男女平等推進センター図書室のページを追加したということなので実際にはポータルサイトの充実を図るという中でまだ十分でないということである。また、3ページ目の資料保存のところ「利用者の見やすいように適切な配置作業を行う。25年度の目標は保存ルールを踏まえつつ廃棄作業を進めます。」この実績は「利用者の見やすく探しやすい書架を保存すべき本は閉架に移して」とあるが最初は漠然したものだったので書き直してもらった。「書架を除籍の基準に基づいて進めた」とあるが一度購入した本は蔵書としてどうなのか見極めた中で処理をしていくべきだ。最低限度の保存の体制を維持していく具体的なことを考えてほしいねらいがあり、あふれた横になっている本を除架すればいいというのではない。そこで必要なものちゃんと残してほしい。除架でAでないのは除架より先にやらなければならないことがあるのではないかとということでBにさせていただいた。5ページの一番上の学校教育の支援というところで目標として「学校図書館と市立図書館の連絡会で情報交換を行います。」目標通りに達成は出来ているがその連絡会の中身が問題だ。2回でなく、少なくとも学期ごとに行う必要がある。また、連絡会のメンバーも関係者を集めて開くとか効果的な会議にしてほしいということでBにした。それから、6ページのアウトソーシングのところ「我々が危惧するのはそれによるサービスの低下、あるいは様々な問題点が予想され、経過観察や実施研修も必要だということです。アウトソーシングによる様々な問題を注意深く見ていく。幸いにして27年度、28年度で光図書館の導入について試行期間をおく。こうしたことを踏まえて、こういう言葉にした。同じく6ページの下から2番目の施設の安全管理ということで危機マニュアルは以前からあるが、「市の作成する以外に図書館独自のマニュアル作成を実施します」ということだが災害時だけでなく、館内におけるトラブル等に対するマニュアルを早急に作成して実施してほしい。これは公的施設を預かる上で最低限必要にことで早急をお願いしたい。以上で1次評価と2次評価の違いをお示しした。

委員：図書館に雨漏りがあったと聞いたが書籍などにかかっていたのではないか。

課長：図書館で一番古い昭和48年にできた恋ヶ窪図書館が台風18号の影響で、この40年でさまざまな改修工事もおこなっていることも響いているのではないか。勿論、老朽化による、外側の外壁の割れもある。また、恋ヶ窪図書館は中庭に水がたまるなどの要因もある中で今回の台風で一気に現われたのではないか。パソコン、本等はブルーシートで覆ったので濡れたものはなかった。雑

誌コーナーから参考資料室にかけてのエアコンのパイプの上から漏れていた。修繕に当たりたい。また、本多図書館のブランウジングコーナーのサンが腐食がひどくなって、そこから雨水が少ししたたっていることと、排煙窓のワイヤーがゆるんでいることがわかったのでしめつけた。台風19号の時もすこし、滴り落ちていた。大規模な修繕はできないがシーリングなどを重点的にやっていきたい。本多の場合は机だけが置いてあるところで本が濡れたりしなかった。

委員：安全管理のマニュアルで突然の災害の災害時に対して、管理していく中で老朽化しているところには対処してほしい。

会長：公共施設なのでなにか起きた時には責任の所在は管理者にくる。十分、配慮し、早急にやらなければならない。

委員：今回、細かく評価して下さり、わかりやすかった。特に1次、2次の評価の違いもわかり、よかったと思う。本当にご苦労様でした。

会長：他にご意見は。それでは図書館評価をご承認いただいたということでよろしいか。(一同異議なし)。今日の議題はこれで終わる。

今日は最後ということなので2年間の協議会にご参加いただいたということで皆さまから一言ご感想いただければと思う。もっとやりたかったこと、こんなことをやりながらやってきたとかなんでも結構なのでお話いただければ。

委員：あっという間の2年間であった。図書館は直営だとあるべきと思っていた。ただ、今回、委託ということで残念な思いもあるがもっといい図書館をしたいという気持ちを図書館の人がもって下さるのであれば支援もし、期待したい。

委員：再任というのではないと思い申し込みをせずに終わってしまった。再任もあると聞いてとても残念である。もし、欠員が出たら、応募して参加したい気持ちだ。民間にいたときに総務部門を担当したことがあるがFORという視点で考えます。Fというのはファシリティーマネジメント、Oというのはオフィスサービス、Rというのはリスクマネジメントであるがこれを皆さんが行っているのはすごいと感じた。縦の糸もあるが横糸につなぐ議論は感心した。これから敬意をもって図書館に通わせていただきたい。

委員：委員の中に民間の方もいて幅広く教えていただいてありがとうございました。今回、私自身言いたいことも言えて楽しかった。こんな意見も言っていていいかといったら、会長からいいですといことで助かった。今回の小委員会の時もいろいろな知識を与えていただいて視野が広がった。また、副会長も一生懸命、直して下さって感謝している。事務局の方も質問にも包みかくさず前向きに答えていただいて感謝している。学校図書館と市立図書館の関係でいうと学校図書館で子供たちが用をすましてしまう。市立図書館でしかできない、例えばおはなし会等をすれば学校図書館しかいない子どもも戻ってくるのではないか。あと、国分寺市の歴史をかたる紙芝居を作ってほしいと言っているがまだ、できていない。折角、歴史のある国分寺なのだから。

課長：楽しいことだしやりたいと思います。

委員：あっという間の2年間だった。国分寺に住んで約20年になる。民間会社の営業部門で勤めていた。今回、参加していろいろな立場の意見を聞いて今更ながら参考になった。また、会長の意見の引き出し方が上手であった。様々な意見をそれがおかしいというのではなく、まず話していただいてうまく方向を変えていくなど進行の仕方が見事であると感じた。また、一般市民としては市の仕事はどうなのか古い体質で行っているのではないかという誤解があった。いろいろな場面で

かなり進んでいることがわかった。いろいろと勉強になった2年間だった。ありがとうございました。

委員：私は公共図書館のことがあまりわからないのと私自身、国分寺市民でないのであまりピンとこないこともあった。唯一の国分寺市にある大学の代表として参加させていただいていた。今後ともよろしくお願ひしたい。

委員：私は障がい者団体枠から参加させていただいていた。実際、本多図書館の近くで働いているので利用者している方のこぼれ話も入ってくる。今回、参加させていただいて図書館の内部的なことがわかった。やはり5館あってよかったと思う。自分が住んでいる所に図書館があることは自分たちが自由に便利に使える。障がい者たちも多く利用するのでありがたかったと思う。次期も引き続き参加するのでよろしくお願ひしたい。

委員：2年間どうもありがとうございました。古い体質の市役所職員でしたのでなかなか建設的な意見が出来なかったことは申し訳なかった。国分寺の運営協議会に参加させていただいて、国分寺の特色というか、立川や府中との比較でなくて、国分寺の独自色をだしていけばいい。当然、見習わなければならないことはやるしかないがそこにある優れたものを出していけばと思う。その点でお手伝いできればと思う。ただ、私は仕事の関係で休みがちなものでご迷惑おかけしますがよろしくお願ひしたい。

副会長：2年間どうもありがとうございました。お忙しい中ご出席いただいた委員の方、真摯な姿勢で耳を傾けていただいた事務局の方にも感謝申し上げたい。毎回、まとまりがないことを申し上げて反省するばかりだ。ただ、図書館大好きな人間なので図書館が発展していくとか皆さんの近くにあればという気持ちで望んだ。いろいろな方々のご意見を聞かさせていただいてとても楽しい協議会活動だった。会長が本当に素晴らしくて経験に裏打ちされたご意見にとっても勉強になった。協議会を力強く引っ張っていただいていたいい協議会になったと思う。皆さま、本当にありがとうございました。

会長：図書館協議会が何のためにあるのかというのは市民の代表として、図書館運営をより良くしていくための支援者という意味合いで図書館が運営しやすい形でやるにはどうしたらいいのかということ常々考えていかなければならない。多くの協議会はだいたい議会や教育委員会の報告だけで委員さん方は聞いているだけでキャッチボールという形でなく、一方的にお知らせをいただくという形の協議会が圧倒的に多いと思う。図書館だけでなく、行政の協議会というのは割とそういうところが多い。私も生涯学習や社会教育の委員会を抱えていたができるだけ委員さん方に最優先で発言しやすいようにやってきた。今回のこのチームはいろいろユニークな方が多い。それぞれ特技をもっていてバランスがいい。私は来るのが楽しい。私の特権で皆さまに振ると予想通りの答えが返ってくるなど非常に楽しい協議会であった。成果物はなかなか出ませんが図書館に対する熱い思いがあって参加していることは事務局の方にも伝わっているのではないかと。こうした思いを市民の代表として受け止めていただいて、それを業務に反映していただく必要があると思う。私がここで一番感じたことは国分寺というのは何と資源が豊富なのか、これは恵まれた条件があるのに職員の方は気づいていない。そこに気づいて活かしてもらおう。どこと比較するのも重要であるが、そこしかないものを活かしていく、あるいは育てていただきたい。国分寺にできる、国分寺しかできないものを見つけていただき、それをバネに進めていただければさらにいいものになる。一番、大事なものは教育ビジョンでも話したが図書館ビジョンを持つことが大事で

ないかと思う。これをどうやって作っていくかがこれからの課題である。地域それぞれに図書館があるというのは他と比較してもそんなにない。さらに公民館が付属していることは社会教育施設として新たに発展していくことが期待できる。ただ、公民館と違って図書館は中央図書館が必要であると思う。中央図書館がしっかりとしたコントロール機能を持って地域館を抱えながら運営を行う。それを市民なり、理事者にわかってもらうようなビジョンを作成ことがこれからの課題である。マイナスからプラスにするようなビジョンを作るように展開していただければ思う。

課長 私も4月から来たばかりで10年間ブランクがあり、図書館評価をやりながら、埋めていったところでもある。非常に内容の濃いものが出来上がったことに感謝している。これから次のステップに向かって道しるべができたことはよかったと思う。本当に委員たちには図書館というキーワードで終結したこの協議会が他にはない血の通ったことができていると思う。自分たちだけで消化してそれだけで終わってしまうが、表に出すことでそれでフィードバックし自覚できるという意味でこの協議会はいい機能だと思います。この半年間、深く感じ入りましたので今後もよろしくをお願いしたい。お疲れ様でした。